



# 園評価の結果について

学校法人 北邦学園  
東橋いちい認定こども園

令和5年度に実施した東橋いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次のとおりです。

建学の精神 「自然から学ぶ」

## 1 本園の教育保育目標

・思いやりのある子      ・考え工夫する子      ・明るくたくましい子

### 【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 保育教諭や友達と一緒に安心して過ごす中で、いろいろな遊びに興味をもつ
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながら、いろいろな遊びを楽しむ中で安心して自分の思いを表現する
- 2歳児 様々な遊びに興味関心をもち、自分なりに気持ちを活動や遊びに興味をもち、保育教諭や友達と関わる楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びに興味をもち取り組んだり、自分なりに気持ちを表現しながら友達と関わったりすることを楽しむ
- 4歳児 いろいろな遊びや活動に興味をもち意欲的に取り組み、自分の気持ちを伝えながらクラスの友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 5歳児 様々な活動に意欲をもち、クラスみんなで取り組む中で、自分なりに考えながら目標や見通しをもって行動することや、いろいろな友達と気持ちや考えを伝え合いながら遊びを進めることを楽しむ

自己評価	評価内容
「A」	<ul style="list-style-type: none"><li>・どの年齢も概ね目標としてきた成長段階に達することができたと感じる。</li><li>・自分なりに気持ちを伝えるという点においては、年齢を追うごとに成長した様子が感じられ、改めて人との関わり大切さに気付きながら、保育に生かすことも出来たと感じる。</li></ul>

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

## 2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。)

課 題	具体的な取組み方法
1 「遊び」の充実のための保育環境整備や質の良い玩具の提供	<p><b>☆保育環境や遊具・玩具・教材などの見直しと保育の充実化に努める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢の成長段階に合わせて経験に繋げる大切な「遊び」の見直し</li> <li>・その遊びを持続するための「環境」、や「玩具」について考え工夫する。</li> </ul> <p><b>☆共通の「学び」を活かす（年間受講の研修を通して）</b></p> <p>『遊びを支える保育環境 ～こどもが遊ぶ、こどもと遊ぶ～』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年6回の「こどものとも社オンライン研修」の受講。</li> <li>・北邦学園の学園職員合同研修（保育教諭・栄養士・事務職員・技術職員</li> </ul>
<p>【自己評価】</p> <p>「A」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・主任と職員との月に1度行っている学年部会の中で、育ちと遊びについて話し合い、環境設定や玩具についても検討を進めてきた。</li> <li>・学園の園内研究に関しても、遊びや環境設定・玩具などの内容で、それぞれの職員が学びを深めた。また、子どもの成長発達において、遊びの重要性について学びを深めると共に保育環境の大切さに気付くことが出来た。</li> <li>・現在ある玩具の選定をしたところ、玩具としての意図や適した年齢の物なのか、検討し改めて精査した。その中で、適した物やそうでない物を見極め、子ども達の遊びがより充実するよう工夫することが出来た。今後も、適宜、保育環境や遊具・玩具の見直しを行い保育の充実化に努めたい。</li> <li>・こどものとも社のオンライン研修を受けたり、外部研修においてもそれぞれが時間を見つけてながら積極的に参加し、自己研鑽に励む姿が見られた。</li> <li>・日々の業務と並行しての研修は、シフトの調整など工夫が必要な場面が多く見られたため今後も個々の力を高めるため援助出来るよう進めていく。</li> <li>・8月の長期休み期間を利用し、学園としての研修を行い、いちいの保育についての学びを深めた。</li> </ul>
2 円滑な保護者連携の推進	<p><b>☆連携・発信方法のさらなる工夫</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・HPブログの定期的な更新。</li> <li>・「コドモン」を活用した保護者との連携。</li> <li>・配布物の内容検討と見直し。</li> <li>・保護者との連携。(送迎時や電話での会話を充実させる)</li> <li>*コロナの状況もあるため、できる限りの範囲を意識して行う。</li> </ul> <p><b>☆保護者参加の機会を増やす</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常保育の見学再開</li> <li>・行事のお手伝い依頼の復活</li> <li>・保育参加（マザーズ・ファザーズデイ・マザーズティチャー等）</li> </ul> <p><b>☆保護者との積極的な連携</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・丁寧な保護者対応を開かれた保育の公開</li> <li>・改善に努め、保護者との連携の強化</li> </ul>

<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内容の充実化を図るため、昨年の配信物と見比べ精査した。そのため、配信が遅れることもあったので、内容に応じて、早めにお知らせ出来るよう努めたい。また、誤字脱字なども含め、ご送信がないよう今後も複数人で確認し対応を行う。</li> <li>・週1回のブログに関しても、多くの保護者の方に評価をいただいている。今後もより充実した内容となるよう意識して取り組む。</li> <li>・個人情報についても安心してどの家庭にも使用していただけたように感じる。また、保護者の方からの連絡も電話ではなく、コドモンの方が様々な場面で活用しやすいとの意見もいただいた。</li> <li>・保護者参加の活動や行事をコロナ前と同様に再開出来たことは、改めていちいの保育を知っていただく機会へと繋がった。ただ、学園の主要的環境であるいちいの村での活動を多く取り入れられなかったため、次年度はそこを意識した保育を行っていききたい</li> <li>・職員一人ひとりが丁寧な対応を意識していた。しかし、問合せからの返答に時間がかかり、再度ご連絡をいただくこともあった。今後はより迅速かつ丁寧な対応に努めたい。また、預かり保育などでの職員連携も意識して、丁寧な対応を意識していききたい。</li> </ul>
<p>3 職員の働き方改革の推進</p>	<p><b>☆業務改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの改善を見据えた、職場環境の見直し</li> <li>・細やかな職員対応</li> </ul> <p><b>☆定期的な研修の継続</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本ワーク/管理職研修/チームマネジメント/食育研修/新人研修</li> </ul> <p><b>☆職員一人ひとりが自分を見つめる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の個人カード作成</li> </ul>
<p>【自己評価】</p> <p>「B」</p>	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本ワーク研修については、当学園の職員による絵本の読み聞かせ会を行い子ども達や、保護者の方からも好評であった。また、担当した職員も大きな自信へと繋がった。今後も学びを深めていきたい。</li> <li>・管理職研修・チームマネジメント研修・北邦学園での様々な研修においても、各園の代表としての意識をもち、それぞれの職員が自己研鑽に励むことが出来た。また、研修後も資料を全体に回覧したり、会議の場で報告するなど情報も共有することで個々の学びを現場でも反映する様子が見られ効果的であった。</li> <li>・研修では、姉妹園見学や保育を学び合う場を設けた事も職員の大きな学びへと繋がった</li> <li>・食育研修については、各園の栄養士が集まり現在月1～2回ほどの会議を行っている。その中で、食材から食器選びまた、業者の選定などを検討し進めている。東橋としては、次年度から全園児が週4回の給食になるに辺りこの食を通して、食べる喜びや意欲、食への興味や健康な身体づくりに繋がるよう努めていきたいと考える。</li> <li>・状況に応じて、それぞれの得意分野を活かし、保育を楽しむ姿が見られた。また、その姿を保育の中で披露することにより、子どもとの絆も深まり日々の保育への励みとなっていた。そして、保育者としての自信にも繋がっていた様に感じた。</li> </ul>

### 3 評価項目の達成及び取組み状況について（※各個人の自己評価チェックリストによる）

（A：成果が上かった。B：ある程度成果が上がった。C：もう少し努力が必要。D：改善が必要。）

評価項目	達成及び取組み状況
「教育保育の計画性」について  自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学園で作成している「教育保育課程・指導計画」を使い、個々の成長やクラスの状況と照らし合わせながら、計画的に保育を実施するよう努めた。</li> <li>・週案や個別の指導案を基に、ねらいにあった成長発達としての援助を行えているのかを話し合う場を設けたことにより、子どもの育ちにあった援助を行い、職員間での連携も図れた。しかし、計画を立てていても、見通しをもつということまでには至らなかったため、今後も見通しもてる計画を意識して保育に努めていきたい。</li> </ul>
「教育保育のあり方、幼児への対応」について  自己評価 「A」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児一人ひとりの育ちと発達を意識して、援助は行えていたように感じる。また、様々な研修で学んだことが、日々の保育と結び付、その学びが子どもとの向き合い方にも活かされ教育・保育の大切さや対応の重要性へと繋がった。</li> </ul>
「保育者としての資質と能力」について  自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的に研修へ参加し、自身の意欲向上に努めていた。また、その意欲を損なうことの無いよう、職場環境を整え積極的な参加を促せるよう配慮した。</li> </ul>
「保護者への対応」について  自己評価 「C」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・迅速で丁寧な対応を心掛けていたが、前段でもお伝えしたように対応の遅れや不備・情報の共有に欠けていたところもあったため、再度職員間での連携をとるための具体案を模索し、職員一人ひとりが真摯に対応できるよう努めていきたい。</li> </ul>
「地域の自然や社会との関わり」について  自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度も、東橋小学校さんとは、多くの機会を通して楽しい交流をもつことも出来た。また、その交流が子どもたちの強い憧れと大きな成長へと繋がったため、次年度もこの経験を活かしていきたいと考える。</li> <li>・次年度も、様々な関係機関との連携を図り活動を進められるよう働きかけたい。</li> </ul>
「研修と研究」について  自己評価 「B」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究については、『一人ひとりの自発的な遊びが継続するための環境の在り方とは』という主題のもと、子どもたちの遊び方や遊びについての興味関心について、また、遊びを継続するための必要な玩具や環境・援助について考えた。年齢に合わせたねらいは概ね達成できた。今後も引き続き更なる工夫と適切な対応を考え、保育を進めていきたい。</li> <li>・研修については、今後も保育者自身が目標をもち、より自己研鑽に励むことができるよう、職場環境を整え援助をしていきたい</li> </ul>

自己評価 「A」	
----------	--

#### 4 今後取り組むべき課題

課 題	課題設定の理由
① 保育環境の創意工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ R 5 年度の研究保育を活かし、子どもの成長発達に繋がる環境構成やそのための整備や工夫を考え、日常の保育に活かせるような取り組みを行う。</li> <li>・ 様々な環境の中で、子どもたち一人ひとりが自ら考え自主的に行動できるような、保育の進め方や環境を意識する。</li> </ul>
② 発達に応じた子どもの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な場面の中で、子ども一人ひとりの姿を受けとめ、その子ども達の育ちに合わせた援助を考え、成長へと繋げられるよう意識する。</li> <li>・ 報連相や職員間での連携を意識し、保育に努める。</li> </ul>
③ 職員同士の連携と情報の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職が一変したことで、これまでスムーズに行なえていたことや、業務においても確認することを意識して努めた。次年度も、子どもたちはもとより、保護者の方にも安心して通っていただけるよう意識して努める。</li> </ul>